

世界最初！ヒトデエキスの有機カルシウム剤

ヒトデ

◇ 純水有機カルシウム「ヒトデ」



有機カルシウム＋微生物＋ホウ素
＋マグネシウム

マンガン＋亜鉛＋モリブデン＋鉄
浸透剤まで含まれた総合有機カルシ
ウム剤

ヒトデの成分

水溶性カルシウム	18%	水溶性マグネシウム	1.5%
水溶性ホウ素	1.3%	水溶性モリブデン	0.001%
水溶性マンガン	0.01%	水溶性亜鉛	0.05%

■ ヒトデカルシウム製品1ℓには、実際にヒトデ950gが入っています。

包装単位 6kg, 1ℓ, 800ml, 500ml, 300ml

化学カルシウムと有機カルシウムの差

もともとカルシウムには有機という言葉は使いません。

ヒトデの無機カルシウムを生物学的な方法で有機液化させたのは、世界的な技術と言えるでしょう。有機カルシウムは植物の自然習性にもっとも適した形態で、副作用もなく吸収が早く、他の元素との拮抗作用も少ないです。

化学的な窒酸カルシウム、塩化カルシウム、シュウ酸化カルシウムなどを使用した液状無機カルシウムに、その他の微量元素などを混合した化学カルシウム剤とは根本から違います。天然な純水有機カルシウム剤であるヒトデは、植物の根本的な問題を解決してくれます。

◇ 新聞、放送雑誌でも相次いで取り上げられるヒトデカルシウム剤への賛辞。



各種の新聞雑誌

FMエグテック「ヒトデ」への企画取材・報道資料。



大田MBC金曜マガジン

FMエグテック「ヒトデカルシウムイチゴ」放映。



KBS昌原放送総局にて

「ヒトデ開発研究」というFMエグテック企画取材放映。



KBS番組「全国はいま」

「ヒトデも資源」というFMエグテック企画取材放映。

着色強化, 着色促進, 熟期を早めてくれる

ヒトデ

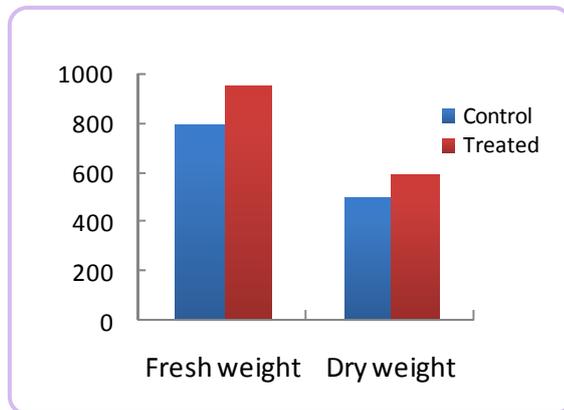
公認機関でのヒトデに対する試験分析研究

ヒトデカルシウムイチゴへのカルシウム含量調査
(一般のイチゴに比べ、**20%**以上もカルシウム含量が高く測定)



全北大学校農科大学論文集 第33号
(ヒトデ唐辛子の生育試験研究)

項目	カルシウムイチゴ試験群	イチゴ対照群	単位
カルシウム (Ca)	11.7	10.8	mg/100g



03. 4. 17 韓国食品開発研究院・カルシウム分析資料
全北大学校農科大学論文集 第33号
(ヒトデ唐辛子の生育試験研究)

treatment	Foliar	Soil
control	7092.3e(100%)	7092.3e(100%)
0.5%	8282.3d(116%)	7994.7ab(109%)
1.0%	8733.3c(123%)	7722.0b(113%)
2.0%	9106.7b(128%)	8131.0ad(115%)
5.0%	9631.7a(128%)	8344.0a(118%)
LSD	182.54	497.79

The effect of foliar spray and irrigation treatment of Liquid fertilizer on calcium concentration of leaf in lettuce.

全国ヒトデ採取大会と原料需給



▲ 2005年トンヨンでのヒトデ取り大会



▲ 2002年トンヨンでのヒトデ取り大会



▲ 2003年ヨスウでのヒトデ取り大会

全国ヒトデ採取大会で採取されたヒトデを有機カルシウム剤**ヒトデ**の原料として使用して、海の環境保護にも多いに役立っています。



▲ 海で回収されているヒトデ



▲ 分類しているヒトデ



▲ 計量



▲ FMエグテックに運搬

総合有機カルシウム剤「ヒトデ」

有機カルシウム+微生物+ホウ素+マグネシウム+マンガン+亜鉛+モリブデン+鉄
浸透剤まで含まれた総合有機カルシウム剤

ヒトデカルシウム剤の特徴

- 粘り強い生命力をもった海の海賊「ヒトデ」の有機カルシウム化(新技術特許第0387936号、第0433785号)
- 2004年、海の日に国務総理表彰
- カルシウム(18%)だけでなく、乳酸菌、酵母菌、糖、総合微量元素まで含まれた総合有機カルシウム剤
- 作物が脆かったり窒素過多のときに、草勢調節および貯蔵性を増大させて耐病性も増大

ヒトデカルシウム剤の作物別の使用方法

作品名	処理時期	使用方法および使用量	効果
果菜類	着果前	葉面施肥: 1000坪に500Mℓで10日間隔で散布 灌注施肥: 150坪に1ℓを15日間隔で散布	徒長防止, 養分欠乏補充, 根の発達, 有機カルシウム供給
	果実肥大期	葉面施肥: 2週間隔 灌注施肥: 150坪に1ℓを15日間隔で散布	尻腐れ病(発酵果)の防止 貯蔵性の強化, 裂果減少
	着色期前後	葉面施肥: 200坪に500Mℓを500倍に希釈して10日間隔で散布	炭疽病の予防, 尻腐れ病の防止, 葉面強化
唐辛子	定植1ヶ月前後 (5月下旬以後)	葉面施肥: 7~10日間隔でたっぷり散布	炭疽病の予防, 尻腐れ病の防止, 葉面強化
	高温障害、長引く梅雨、カルシウム欠乏障害、炭疽病が酷いとき。	葉面施肥: 500倍に希釈して10日間隔でたっぷり散布	炭疽病の予防、カルシウム欠乏の解消
葉菜類	定植後10日後	灌注施肥: 1ℓを20マスに希釈してたっぷり散布 葉面施肥: 500倍に希釈して7日間隔で散布	白菜の尻腐れ病の防止、サニーレタスの尻腐れ病の防止および解消
人参	5~10月	葉面施肥: 100坪に500Mℓを500倍以上に希釈して10日間隔でたっぷり散布 灌注施肥: 150坪に1~2週間隔で散布	根の発達、葉脈が厚くなる、高温多湿に強い
苺	定植後3週以後	灌注施肥: 1ℓを20マスで希釈して150~300坪に灌注 葉面施肥: 500倍に希釈してたっぷり散布	花芽分化を促進、栄養分 欠乏の補充、実くずれ果の防止、クラウンの均一な発達と貯蔵性の強化
果樹類	開花前の3~4月リンゴ (苦とう病)	葉面施肥: 500倍に希釈してたっぷり散布	苦とう病の予防
	夏(梅雨が来る前)	葉面施肥: 500倍に希釈してたっぷり散布	落果防止、褐変現状を防ぐ
	9~10月	葉面施肥: 500-600倍に希釈して一週間間隔でたっぷり散布	着色および貯蔵性の強化